

(別紙様式3)

令和6年 3月 31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 茨城県つくば市天王台一丁目1番1
管理機関名 国立大学法人筑波大学
代表者名 学長 永田 恭介
(公印省略)

令和5年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和5年 4月 1日(契約締結日)～ 令和6年 3月 31日
- 2 事業拠点校名 (幹事管理機関のため該当無し)
- 3 構想名 (幹事管理機関のため該当無し)
- 4 構想の概要 (幹事管理機関のため該当無し)
- 5 教育課程の特例の活用の有無 (幹事管理機関のため該当無し)
- 6 管理機関の取組・支援実績 (幹事管理機関のため該当無し)
- 7 研究開発の実績
(1) 実施日程

業務項目	実施期間(契約締結日～令和6年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 本事業全体の情報共有及び成果普及のための研究協議会・フォーラム等の取組を主催・実施計画(文部科学省と共催)	連絡協議会開催準備		連絡協議会開催(6月30日)		連絡協議会の総括と全国高校生フォーラム開催に向けた準備		全国高校生フォーラム開催に向けた準備		全国高校生フォーラム開催(12月17日)		全国高校生フォーラムの総括と次年度への準備	
(2) 各拠点校等に共通する課題やニーズの把握及び解決方法の提案・実施計画(文部科学省と協働)	連絡協議会に向けた各校からのニーズの集約と情報提供準備		連絡協議会における各校からのニーズの集約と情報提供		全国高校生フォーラムに向けた各校からのニーズの集約と情報提供				全国高校生フォーラムの成果と提起された課題の集約		全国高校生フォーラムで提起された課題の集約及び課題解決方法の共有と提案	

<p>(3) 本事業全体の成果等について、ホームページ等による公表（外国語を含む）計画（文部科学省と協働）</p>	<p>WWL 専用ホームページ等での普及</p>	<p>連絡協議会開催に向けての情報発信</p>	<p>連絡協議会の報告と情報発信 全国高校生フォーラム開催に向けての情報発信</p>	<p>全国高校生フォーラム開催の情報発信</p>	<p>全国高校生フォーラムの報告と情報発信</p>
<p>(4) 文部科学省が設置する WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における実施経過報告や連携等を通じた本事業の円滑な実施（文部科学省と協働）</p>	<p>WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携による連絡協議会の円滑な実施準備</p>	<p>WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携した連絡協議会開催</p>	<p>WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における連絡協議会実施経過報告及び全国高校生フォーラムの円滑な実施準備</p>	<p>WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携した全国高校生フォーラム開催</p>	<p>WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における全国高校生フォーラム実施経過報告及び地域 AL 拠点機関等含めた事業全体に関する集約・報告等</p>

(2) 実績の説明

1. WWL コンソーシアム構築支援事業連絡協議会開催

6月30日（金）、筑波大学東京キャンパスにおいて、「令和5年度 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業およびスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク連絡協議会」（文部科学省・筑波大学共催）を4年ぶりに対面開催した。WWL カリキュラム開発拠点校等 25 機関、SGH ネットワーク参加校 47 校などから、117 名が参加した。

午前の部は、呑海沙織筑波大学副学長・附属学校教育局教育長による幹事管理機関挨拶、文部科学省の水田功大臣官房文部科学戦略官・教育改革特別分析官による文部科学省挨拶から始まり、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付の三井俊祐参事官補佐より WWL コンソーシアム構築支援事業に関する説明がなされた。

続いて、WWL 令和4年度指定校である名古屋国際中・高等学校、滋賀県立彦根東高等学校と、令和5年度個別最適事業指定機関である長野県教育委員会から取組等発表があり、先進的な取組や生徒の活躍の報告に対して、質問や活発な意見交換が行われた。これらの取組に対して、黒田一雄企画評価会議委員、橋本沙織企画評価会議委員からコメントがあった。

午後の部は、5～6名ずつに分かれたグループ別協議を、前半・後半でメンバーを入れ替えて50分×2回行った。テーマとして、①ウィズコロナ・アフターコロナにおける海外交流活動について、②高大接続（先取り履修）の今後の展望、課題について、③開発したカリキュラムの展開・活用・発信における取組・課題について、のうちいずれかを取り上げた。どのグループも非常に活発な意見交換がなされ、互いの事例や課題を共有し議論を深めた。

その後、会場を移した全体発表で、各グループにおける協議内容が共有され、発表内容に対する久野弘幸企画評価会議委員からのコメントがあった。

最後に、企画評価会議の萱島信子座長から代表挨拶・総評があり、日本の未来を作っていく世代の新たな学びを発展させていくとともに、探究の喜び・発見・力を伸ばしていくため関係者とともに努力していきたいという、全国の参加者に対する激励の言葉が述べられ、すべてのプログラムを終了した。

参加者からは、「対面開催は、やはり良いと素直に思いました。オンラインと違う先生方、文科省及び委員の方々の熱量が伝わりました」「対面で情報交換ができる機会があり、たいへん有意義でした」など、久しぶりの対面開催に対して好意的な意見が多数寄せられ、参加者アンケート（有効回答数 61）での連絡協議会全体を通しての平均満足度は 4.49（5 点満点）だった。

2. WWL コンソーシアム構築支援事業全国高校生フォーラム開催

12月17日（日）、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業およびスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワークに参加する国内外の109校（WWL55校、SGHネットワーク54校／ポスター掲示による参加6校を含む）の生徒および関係者約450名が参加し、国立オリンピック記念青少年総合センターにて全国高校生フォーラムを対面形式で行った。

（当日のプログラム）

開会式 10:00～10:10

ポスターセッション・生徒交流会（ディスカッション）* 10:25～11:50

（昼休み）

ポスターセッション・生徒交流会（ディスカッション）* 12:55～14:20

表彰式・閉会式 15:00～16:00

*ポスターセッションと生徒交流会（ディスカッション）は、参加校を2グループに分け、午前・午後でそれぞれに参加した。

フォーラム全体の進行は、前年度文部科学大臣賞を受賞した渋谷教育学園渋谷高等学校の生徒2名が総合司会として担当し、開会式では、幹事管理機関を代表して呑海沙織筑波大学副学長・附属学校教育局教育長による挨拶の後、全体説明等を行った。

ポスターセッションでは、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の研究内容や解決にむけた提言等に関する各校のプレゼンテーションを英語で行った後、審査委員による質疑応答が行われた。

生徒交流会（ディスカッション）では、20名程度のグループをつくり、アドバイザーの筑波大学教員、アシスタントの筑波大学の学生に助言を受けながら、「Diversity」をテーマに種々のグローバルな社会課題を取り上げ、解決に向け高校生にできることは何か等、英語によるディスカッションを行った。

表彰式・閉会式では、優秀なポスター発表を行った学校に贈られる各賞（文部科学大臣賞、審査委員長賞）および新設された優秀ポスター賞の発表が行われた。企画評価会議の萱島信子座長より講評をいただき、総評として安江伸夫文部科学大臣政務官よりビデオメッセージをいただいた。

萱島氏、安江氏からは、本フォーラムが、国内外の多数の高校生が一同に会し、日頃の成果を発表し、語り合い、学び合う貴重な機会となったことへの喜びが述べられ、将来、社会課題解決に積極的に関わることのできるグローバルリーダーとして活躍することを期待する旨のメッセージをいただき、すべてのプログラムを終了した。

受賞校一覧

■文部科学大臣賞（1校）

岡山県立岡山城東高等学校

カテゴリ：スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク

ポスタータイトル：「日本の英語教育と狭まる私たちの未来」

■審査委員長賞（1校）

愛知県立千種高等学校

カテゴリ：WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業

ポスタータイトル：「多角的な視野を持つ人材の育成を目指して」

■優秀ポスター賞（4校）

広島県立広島中学校・広島高等学校

カテゴリ：スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク

ポスタータイトル「卵殻や卵殻膜を用いた水質浄化」

大阪府立千里高等学校

カテゴリ：スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク
ポスタータイトル「ADHD の特性を持った子ども達にとって有用な視覚教材の見直しと開発について」

名古屋大学教育学部附属中・高等学校
カテゴリ：WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業
ポスタータイトル「どこでも English！ ～英語教育の地域格差をなくすために～」

宮崎県立宮崎大宮高等学校
カテゴリ：WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業
ポスタータイトル「Fish' s dish ～新たな餌原料の提案、養殖漁業の発展を目指して～」

8 目標の進捗状況、成果、評価

WWL コンソーシアム構築支援事業連絡協議会および WWL コンソーシアム構築支援事業全国高校生フォーラムは、どちらも4年ぶりに対面で開催することができた。この間、3年におよぶオンライン開催により、対面開催の経験を持つ職員も少なくなっており、文部科学省との調整も含め準備段階での検討事項が多岐にわたるなど当日の円滑な運営に不安な面があったが、関係職員の力を結集して、大きなトラブルもなく無事に開催することができた。

参加者の感想も、連絡協議会では、対面でのグループ別協議等において各校の実践についての情報交換が十分できたことに対する先生方の評価が高かった。また、全国高校生フォーラムにおいても、各校の英語によるポスター発表と質疑応答や、生徒交流会でのグループディスカッションなど、対面ならではの活発な交流ができたという評価を参加生徒や先生方からいただくことができた。

これらの成果により WWL 幹事管理機関として5年目の取組みは、コロナ禍を経て、対面での活発な交流の場を復活させたことにより、イノベティブなグローバル人材を育成するという WWL 事業の推進に大きく貢献するものであったといえる。

9 次年度以降の課題及び改善点

- ・全国高校生フォーラムのポスターセッションについて、参加者アンケートでは全体として高い評価を得たが、発表と質疑応答の時間の割振り、複数の発表機会の確保、参加生徒どうしの質疑応答の時間の確保などについての要望が多くみられた。また、審査についても、審査員による評価の方法やばらつきについて改善を求める声があり、表彰校の数が少なかった点についても、せっかくの対面開催であり、生徒の達成感を高めるためにも拡充を求める声が多かった。

- ・全国高校生フォーラムの生徒交流会（ディスカッション）についても、参加者アンケートで高い評価を得たが、テーマの設定や進行について意見があった。また、会場によって日本語でのディスカッションとなってしまったなどの指摘もあり、英語を使う必然性が生まれるよう、来年度は留学生などの参加を促すなどで改善を図ることができればと考える。

- ・今後も文部科学省と連携の上、幹事管理機関として、より多くの有為なグローバル人材の育成に繋がる各校の好事例の共有や、各校の生徒による発表とディスカッション場を確保することで、その役割を果たしていきたいと考える。

【担当者】

担当課	東京キャンパス事務部企画推進課	TEL	03-3942-6432
氏名	大坪 仁美	FAX	03-3942-6911
職名	一般職員	E-mail	kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp